

科目名	メディア文化論特講	担当者	エノモト 榎本 マサキ 正樹	期間	通年	単位数	4
-----	-----------	-----	-------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>日本を代表するアニメーションスタジオであるスタジオジブリの仕事と、日本を代表するアニメーション監督である新海誠監督の作品を高度に分析・論述した二冊の評論（どちらも 2021 年に刊行）を教材に、映像作品を分析する手続きと、分析のプロセスを言説化するための方法論を習得する。</p> <p>前期の授業では三浦雅士『スタジオジブリの想像力 地平線とは何か』（講談社）を教材とし、「地平線」という観点から、ジブリアニメ（主に宮崎駿監督作品）の各作品に検討を加えていく。三浦によれば、ジブリ作品において、「地平線」の表現が「飛翔」や「恋愛」や「内面空間」などの要素を前景化するという。</p> <p>「地平線」という概念または視点が設定されることで、ジブリ作品へのこれまではなかった批評的アプローチが可能になる。三浦の分析の手続きをつぶさに学び、各自それぞれのアニメーション研究の経験値の向上につなげていってほしい。本書は、西洋画の技法の歴史の中でアニメーションやジブリ作品を位置づける画期的な批評でもある。視覚芸術史の中で、アニメーションという表現技巧がいかに革新的であると定義されるのか。視覚表現史の視点からアニメーションについて考える機会も持ちたい。</p> <p>後期の授業では、榎本正樹『新海誠の世界 時空を超えて響きあう魂のゆくえ』（KADOKAWA）を教材とし、「デジタルアニメーション表現の現在」の代表といえる新海誠監督の全作品を取りあげ、その作品世界を考察、分析し、自分の言葉で論じる力を獲得することを目的とする。新海監督のキャリアは、アニメーション制作の現場にデジタルの波が押し寄せるゼロ年代初頭にまで遡ることができる。デジタル表現の開拓者としての新海の評価は、最新作『天気の子』に到るまで一貫している。</p> <p>新海作品には「言葉」への信頼、言い換えれば「文学」への強い視線が底流している。人と人の中で取り交わされるコミュニケーションとディスコミュニケーションの情景を、独自の映像美学によって丁寧にすくい取る新海の手法は、「アニメーションという表現手段を用いた文学」と形容可能なものである。新海監督の初期作品から最新作『天気の子』までの作品を参看しつつ、その表現世界を紐解くことで、同時代の先鋭的な表現者である新海誠の思想と方法を明らかにする。</p> <p>アニメーションの制作工程と各工程での仕事内容を細密に検討することによって、アニメーションの制作プロセスを可視化し、アニメーション制作の現場的・実践的な方法を習得することも、本授業の目的である。現在、多くのアニメーション作品は、コンピュータを活用したデジタルアニメーションへと完全移行している。制作現場のデジタル化が、新しい表現や革新的な技術革命をもたらしている。アナログのセルアニメーションからコンピュータによるフルデジタルアニメーションへの移行によって、どのような変革がもたらされ、新たな表現の地平が開けたのか、二十一世紀のアニメーションの表現史を批評の言葉で思考し、分析し、言説化する能力を獲得することを、一年を通した最終的な目的とする。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】</p> <p>最新のアニメーション批評に触れるとともに、視覚芸術としてのアニメーションの分析、考察、論述の方法を理解する。映像表現であるアニメーション作品を多様な視点から分析、考察し、研究的な視座から言説化する能力を身につける。アニメーション作品は分業化された作業プロセスの集合体である。作家論、作品論的な視点に加え、多種多様なスタッフワークの協働による装置産業としての側面をもつアニメーション制作の特殊性に鑑み、テクニカルな視点から作品を論じるための知識を併せ習得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <p>アニメーション監督の作品を分析的に観賞する作業を経由して、固有の作家性や作品のテーマやモチーフを批評の言葉によって言説することができるようになる。協働作業の産物としてのアニメーションの制作工程を、説明することができるようになる。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>manaba folio でのディスカッションと情報共有、教員との主にメールを通したインタラクティブなコミュニケーションを通して、レポート提出を目指す。</p> <p>【学修方略 (LS) と学修時間】</p> <p>前期は基本教材 1 を読み進めることをメインとする (20 時間/自習)。教材の中で言及されている作品は、適宜観賞すること (20 時間/作品鑑賞)。ジブリや宮崎駿監督に関する資料は充実しているため、各自探索の上、自分の興味に応じた資料を参看すること。基本教材 1 の問題点や論点を整理しながら研究を行い (20 時間/自主研究)、レポート作成を行う (30 時間/レポート 2 本)。</p> <p>後期は新海作品の観賞 (15 時間/自習)、レポートの提出に向けた基本教材 2 の精読 (25 時間/自習)、作品鑑賞と基本教材 2 の分析と考察 (20 時間/自主研究)、レポートの作成 (30 時間/レポート 2 本) を行う。</p>		
スケジュール	<p>前期：6 月末までにレポート課題 1 の初稿を提出 8 月末までにレポート課題 2 の初稿を提出 *最終稿は前期の提出期限までに仕上げ、提出すること</p> <p>後期：10 月末までにレポート課題 1 の初稿を提出 12 月末までにレポート課題 2 の初稿を提出 *最終稿は後期の提出期限までに仕上げ、提出すること</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	100%	基本教材及び作品の読解力と分析力、レポートの文章表現力、構成員力、論述力、課題へのレスポンス度などから総合的に評価する。
	観察記録	%	
履修者への要望	<p>アニメーションを観賞する機会が少なくても、映像表現やサブカルチャーなどに関心がある学生であれば学修できる授業内容です。アニメーション研究は一つの研究ジャンルとして固定化したものではなく、様々な研究領域を横断することで成り立つ比較的新しい研究です。既存の考え方や方法やアプローチにとらわれることのない、自由な視点に立った意欲的なレポートを期待します。</p> <p>榎本の研究実績や関連情報は、ネットで検索できます。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 三浦雅士 教材名： スタジオジブリの想像力 地平線とは何か 講談社、2021・8 ISBN978-4-06-524132-5
	スタジオジブリの機関誌「熱風」連載のエッセイを単行本化にあたり大幅加筆。文芸批評、現代思想、身体論など、常に時代の最前線で批評を行ってきた著者の集大成ともいえるアニメーション論。西洋美術との対比や、「地平線」という問題設定により、ジブリ作品を大胆奔放に横断する画期的批評。
参考図書	ジブリ作品の参考文献は膨大に存在するので、履修者の希望に応じて個別に情報提供する。
履修上のポイント	ジブリ作品、または宮崎駿監督作品への関心は、最低限必要とされます。これまで文学論やアニメーション論を書いた経験がなくても、学生一人ひとりのスキルや関心に応じた指導を心がけ、ナビゲーションを行うので、安心して履修してください。
レポート課題 1	『スタジオジブリの想像力 地平線とは何か』を精読した上で、興味をそそられた箇所や、検討すべき事項、問題点、批判点などを整理して 3,000 字以上でまとめる。 留意点： 単なる感想文にならないように気をつける。
レポート課題 2	ジブリ作品から一作品、または複数の作品を選び、教材の論究を踏まえた上で、作品論を展開する。 留意点： 作品選びがポイントとなる。自分が展開する論の趣旨にフィットする作品を適切に選ぶこと。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 榎本正樹 教材名： 新海誠の世界 時空を超えて響きあう魂のゆくえ KADOKAWA、2021・11 ISBN978-4-04-064709-8
	新海誠という才能が誕生した背景と自主制作へと導かれていくまでのプロセスや、『ほしのこえ』『雲のむこう、約束の場所』『秒速 5センチメートル』『星を追う子ども』『言の葉の庭』『君の名は。』など最初期作品から最新作まで詳細に読み解き、新海監督のアニメーションを映像文学として分析した評論。
参考図書	履修学生の関心の方向性を踏まえ、個別に情報提供する。
履修上のポイント	新海監督は、最初期作品から最新作『天気の子』まで、コミュニケーションとディスコミュニケーションをめぐる情景を一貫して描いてきた。「時間」と「空間」と「距離」にまつわる「断絶」が、各作品でどのように描かれ、作品ごとにどのように変化していくのかに注意しながら観賞する。従来のアニメーション表現を越えた、緻密で美しい情景描写も、新海作品の特徴である。「緻密さによって表現されるもの（こと）」とは何なのか、という問いを常に意識して作品分析に臨むこと。 本シラバス執筆時には確定していないが、2022 年には新海監督の新作が公開される可能性が高いため、履修期間中に新作が公開された場合、対象作品に入れることとする。
レポート課題 1	『新海誠の世界 時空を超えて響きあう魂の行方』を精読した上で、興味をそそられた箇所や、検討すべき事項、問題点、批判点などを整理して 3,000 字以上でまとめる。 留意点： 単なる感想文にならないように気をつける。
レポート課題 2	新海監督作品から一作、または複数作を選んだ上で（新作が公開された場合はその作品を含む）、自分の読みのポイントを明らかにした上で、3,000 字以上で作品論を展開する。 留意点： テーマ設定や論述方法を含め、自分で考え、構想し、レポートにまとめあげること。各自、異なるテーマや方法でレポートを書くことになるので、個別に指導する。

基本教材 1

第 1 回	教材の学修：基本教材 1 の第一章、第二章、第三章の精読
第 2 回	作品鑑賞、関連資料の収集と分析
第 3 回	レポート課題 1：初稿の準備（基本教材 1 の分析と考察）
第 4 回	レポート課題 1：初稿の作成と添削指導
第 5 回	レポート課題 1：ピア・レスポンス
第 6 回	レポート課題 1：最終稿の作成と提出
第 7 回	教材の学修：基本教材 1 の第四章、第五章、第六章の精読
第 8 回	関連資料の収集と分析
第 9 回	教材の学修：基本教材 1 の第七章、第八章の精読
第 10 回	関連資料の収集と分析
第 11 回	作品鑑賞と作品分析
第 12 回	レポート課題 2：初稿の準備
第 13 回	レポート課題 2：初稿の作成と添削指導
第 14 回	レポート課題 2：ピア・レスポンス
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成と提出

基本教材 2

第 1 回	教材の学修：基本教材 2 の第一章、第二章、第三章の精読
第 2 回	教材の学修：基本教材 2 の第四章、第五章、第六章の精読
第 3 回	教材の学修：基本教材 2 の第七章、第八章の精読
第 4 回	レポート課題 1：初稿の準備（基本教材 2 の分析と考察）
第 5 回	レポート課題 1：初稿の作成と添削指導
第 6 回	レポート課題 1：ピア・レスポンス
第 7 回	レポート課題 1：最終稿の作成と提出
第 8 回	関連資料の収集と分析
第 9 回	作品鑑賞とレポート予定作品の選択
第 10 回	作品鑑賞と作品分析
第 11 回	関連資料の収集と分析
第 12 回	レポート課題 2：初稿の準備（基本教材 2 の分析と考察）
第 13 回	レポート課題 2：初稿の作成と添削指導
第 14 回	レポート課題 2：ピア・レスポンス
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成と提出